

次号予告

特集 ネットワークシステムのセキュリティ評価と危機管理

ネットワークシステムの信頼性の定量的評価法

— 枝故障に対する連結性保持の信頼度計算法 — ……今井 浩 (東京大学)

経路数え上げによるネットワークシステムの連結性の定量的評価法と

わが国道路網への応用 ……大山達雄, 諸星穂積 (政策研究大学院大学)

横断交通路による距離短縮効果の定量的評価方法 ……三浦英俊 (明海大学)

都市ガス供給網における超高密度地震防災システム—SUPREME— ……清水善久 (東京ガス)

情報ネットワークの情報セキュリティ対策とリスクマネジメント ……杉野 隆 (国士舘大学)

テロリズムリスクの予想と評価 ……大内正俊 (東芝ITソリューション), 大山達雄 (政策研究大学院大学)

編集後記

○本号が皆様の手元に届く頃には、もう終わりにしていることを祈っておりますが、小生が編集後記を書いている時点は「イラク戦争」の真っ最中です。今月の特集テーマ、ロジスティックの元来の意味は、よく知られているように兵站すなわち軍事上の輸送、補給を指します。

○ある新聞によれば、イラク駐留の米英軍は1日に飲料水150万リットル、燃料6千万リットルを必要とするそうです。我々が対象とするロジスティック・システムが定常的な流れを構成しているのに対して、戦争ではこれらの大量の物資を短期にしかも敵の攻撃を受けつつ確実に輸送しなければなりません。

○今回の戦争では、物流会社の各種システムを応用し

て、バーコードを用いた物資の管理やパソコンを用いた物資の注文など高度な管理システムが導入されている、とのこと。平時の技術が軍事面に生かされているようです。

○数年前にある先生から、ORの技術が戦争に使われるようになることは恐ろしいことだ、という話を聞いたことがあります。そのときは、その言葉の意味がよく分からなかったのですが、既にこれは現実のことになっているようです。どのくらい恐ろしいことなのか、いまだ現実感を伴って迫ってきませんが、ORは、その生い立ちからして戦争と切っても切れない関係にあるわけで、私たちは、今後開発される技術やアイデアが、また戦争に応用されることだけは十分認識しなければならないようです。

(三浦英俊)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 上田 徹(成蹊大学) 副委員長 高橋敬隆(早稲田大学)

委員 池上敦子(成蹊大学), 大澤義明(筑波大学), 大屋隆生(財団法人中央研究所), 小沢利久(駒澤大学), 杉野隆(国士舘大学), 高橋一喜(東京ガス(株)), 中川慶一郎(株NTTデータ), 中川義之(キヤノンシステムソリューションズ(株)), 生田目崇(専修大学), 難波和明(東京理科大学), 原 裕淳(東芝ITソリューション(株)), 平山克己(北九州市立大学), 松村良平(東京工業大学), 三浦英俊(明海大学), 矢田 健(日本電信電話(株))

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成15年6月号 第48巻 第6号 通巻510号

代表者 小笠原 暁

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 上田 徹

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

○本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税含)

○本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ